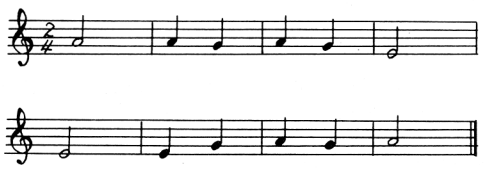
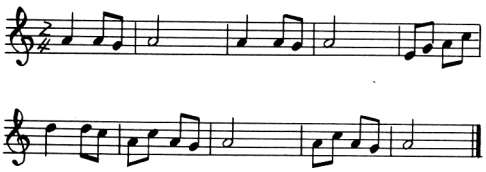
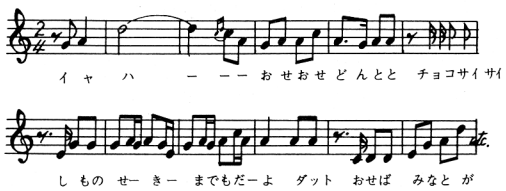


○音域を広げる。（終止音を意識させながら，歌わせる。）



○民謡の表現へと発展させる。

譜例　9　「西郷の盆踊り歌」

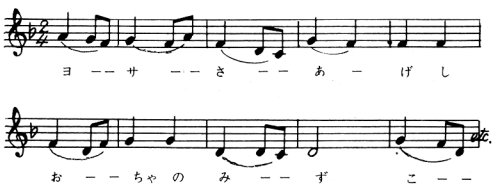


④　3学年では，「拍節的でないリズムの民謡」を教材とする。共通鑑賞教材「鹿の遠音」と関連づけたり，「拍節的なリズムの民謡」と比較させながら表現させる。

⑤　新学習指導要領で示されている「日本民謡の旋律における装飾的な音の動き」（第3学年2のA　(2)　ア）では，旋律の装飾的な音の動き，すなわち，節回しや小節（こぶし）の表現ができるようにするとともに，日本民謡の特徴を理解させる。

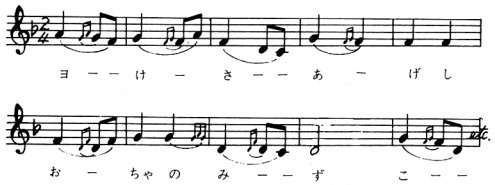
譜例　10　「いわきの餅つき歌」

a　旋律の骨格をまず歌えるようにする。



○　小節（こぶし）の付け方を工夫させる。

b　現地の人が歌ったもので，節回しや小節（こぶし）の付け方を自分たちの工夫したものと比較させ，表現に生かす 。



⑥　動作（踊り）を伴う民謡を教材とした場合は，できるだけ身体表現を通して，民謡の素朴な美しさや楽しさを味わわせる。

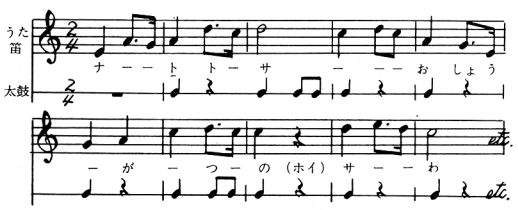
⑦　民謡の伴奏として楽器を活用する場合，次のような活用が考えられる。

ア　リズム伴奏を付ける。

太鼓（樽太鼓あるいは，ボンゴ）・拍子木・鉦など

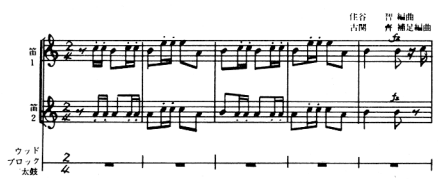
イ　横笛のパートをリコーダーで模奏する。

譜例　11「大久保の田植踊り（お正月）」



ウ　太鼓やリコーダーで，前奏や間奏を工夫して作る。

⑧　民謡の旋律をアルト・リコーダーなどで演奏する。

⑨　器楽曲に編曲して合奏を楽しむ。

譜例　12　「会津磐梯山」